

療育手帳所持者における 国連国際障害統計ワシントン・グループの指標の選択状況

北村 弥生
(長野保健医療大学)

KEY WORDS: 障害統計、コミュニケーション

(目的)

本研究では、国連国際障害統計のワシントン・グループ（以下、WG）が作成した指標が日本の療育手帳の等級とどのような関係にあるかを明らかにすることを目的とする。

WG は 2001 年に立ち上げられた国連の組織で国際的に比較可能な障害発生率の指標を作成することを使命とする。その理由として、Disability Statistics Compendium(1990)で、障害発生率はチリが最小で 0.3%、オーストラリアが最大で 20.9%と差が大きいことが、よく引用される。

2006 年に国勢調査で使うために、WG は短い質問群（ショートセット。以下、WG-SS）を作成した（表 1）。「視覚」「聴覚」「移動」「記憶・集中」「セルフケア」「コミュニケーション」の 6 項目について「苦労があるか」を聞き、4 段階「全くできない」「とても苦労する」「少し苦労する」「全く苦労しない」の選択肢での回答を求める。「全くできない」と「とても苦労する」を選んだ場合に、「障害」と分別する。

表 1 ワシントン・グループの短い質問群（原文と仮訳）¹⁾

WG-SS (2006) BECAUSE OF A HEALTH PROBLEM:	短い質問群 健康の問題により:
1) Do you have difficulty seeing even if wearing glasses?	あなたは眼鏡を着用しても見るのに苦労しますか？
2) Do you have difficulty hearing even if using a hearing aid?	あなたは補聴器をつけても聞くのに苦労しますか？
3) Do you have difficulty walking or climbing stairs?	あなたは歩いたり階段を登ったりするのに苦労しますか？
4) Do you have difficulty remembering or concentrating?	あなたは思い出したり集中したりするのに苦労しますか？
5) Do you have difficulty with (self-care such as) washing all over or dressing?	あなたは身体を洗ったり衣服を着たりする（様なセルフケアで）のに苦労しますか？
6) Using your usual (customary) language, do you have difficulty communicating (for example understanding or being understood by others)?	あなたは普通（日常的）の言語を使用して意思疎通することに苦労しますか？（たとえば、理解したり理解されたりすること）

RESPONSE CATEGORIES	NO - NO DIFFICULTY	YES - SOME DIFFICULTY	YES - A LOT OF DIFFICULTY	CANNOT DO AT ALL
選択肢	いいえ、苦労はありません	はい、多少苦労します	はい、とても苦労します	全くできません

しかし、WG-SS は知的障害者と精神障害者をうまく捕捉できないことは当初から指摘されている。そのため、WG 事務局は、WG-SS に「上肢」「不安」「憂うつ」の各 2 項目を加えた WG-SS Enhanced (WG-SS 強化版)を推奨しているが、まだ国際的な合意にはいたっていない。そこで、本研究では WG-SS の有用性と課題を知るために、療育手帳所持者が WG の指標で「障害」に分別されるか否か、等級の程度と WG の指標での「苦労の程度」と「頻度の程度」が対応するか否かを明ら

かにすることを目的にデータを解析した。

(方法)

長野県飯山市（人口約 2 万人）において、障害者手帳所持者 1,221 名（身体 867 名、療育 154 名、精神 200 名）を対象に、郵送法による質問紙調査を実施した。重複障害者には、調査票を重複して発送することを避けるために、身体障害、知的障害の順に優先して発送した。発送は飯山市が行い、返信用封筒のあて先も飯山市とした。

589 名（48.2%）から回答があり、内訳は身体 407 名、療育 75 名、精神 80 名、重複 19 名、不明 8 名であった。療育手帳所持者について等級ごとに、WG の短い質問群全 6 項目（WG-SS）の 4 つの選択肢および不安 2 項目・憂うつ 2 項目の選択肢（頻度と程度）の分布を集計した。

本研究は、国立障害者リハビリテーションセンター倫理審査委員会および長野保健医療大学倫理審査委員会から承認を得て、厚労科研「現状の障害認定基準の課題の整理ならびに次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のための調査研究」（平成 31～令和年度）の助成を得て実施した。

(結果)

療育手帳所持者 66 名に対して、①WG-SS の指標で「障害」と分別されたのは「コミュニケーション」では 17 名 25.8%、「記憶・集中」では 12 名 18.1%、「セルフケア」では 11 名 16.7%であった。②「不安」の頻度が「毎日」または「週に 1 回」は 29 名 44%、「憂うつ」では 20 名 30.4%であった。

療育手帳所持者のうち最重度 A1 の 13 名について、「全く苦労はない」と回答したのは、「コミュニケーション」では 30.7%、「記憶・集中」では 60%、「セルフケア」では 46.7%であった。

(考察)

WG-SS による療育手帳所持者の捕捉率を上げるための対策が必要と考えられた。日本の障害認定基準は WG-SS の指標とは異なる視点で作成されていることから、WG の指標から日本の障害福祉制度を直接に評価することはできないことに留意が必要なが確認されたと考える。ただし、対象者数を増やした検証は必要である。

(文献)

- 1) 江藤文夫. 障害統計のツール開発の国際動向 ー国連ワシントン・グループ会議の活動を中心に. 厚労科研 平成 22～24 年度総合報告書「障害認定の在り方に関する研究」, 2013. (KITAMURA Yayoi)